

挨拶

謝 辞

被表彰者代表

重 田 暁 彦



ただいま表彰を受けました重田でございます。多くの方々の前、極めて僭越ではございますけれども、一言ご挨拶を差し上げたいと思います。

本日、いろいろと日本知的財産協会に貢献されたということで、多くの方が表彰されました。そういう諸先輩の中を代表してのご指名で恐縮ですが、ご挨拶させていただきます。10年経つと表彰を頂けるということなので、10年も経ったのかなと思うんですけども、私としてはあまり大きな貢献をしているような気がしません。

そもそも、私が担当しているのはAコースですので、まさに入門の入門で、前座としてやっていたつもりでございます。そういう前座で最初にやるので、挨拶も最初にやるようにということかなと思っております。

いろいろ考えてみますと、私と日本知的財産協会の関係と申しますと、かれこれ30年以上です。当初は、知的財産協会の中の特許の専門家の集まりでありました特許管理委員会の中で、部長クラスだけを集めた特許管理政策委員会というのが作られまして、そこで知的財産をこれからどうするんだという活動がなされた訳ですけども、そこで私は未だ20代でしたがお手伝い、要するに書記として参画したのがスタートでした。

その後、知的財産情報委員会、それから知的財産管理委員会、総務企画委員会、さらには、今年から名前が変わったそうですが研修委員会というところで、いろいろ多くの方々とは意見を交換させて頂いたり、また議論を戦わさせて頂きまして、現在の私があるのはまさに委員会活動での触発の結果ではないかなと思っております。

いろいろと議論する、さらにはどこかで落としどころをつける、その辺のタイミングをやるということも、この協会の活動を通して私は学んできたつもりでございます。そういった管理委員会などの話について、ちょっと研修で話をせよということが研修に携わった一つの切っ掛けでございましたけれども、もう10年も経ってしましまして、大変なことだったなと思います。

実は今年、2007年問題で団塊の世代がまさに企業から徐々に去って行くといいますが、定年を迎え、既に定年を迎えた方もおられますけれども、ベテランがどんどんいなくなると今までの知恵はどうなっちゃうんだということで、一番それを伝えられるのが知的財産協会の研修事業の役割ではないかなと思っております。諸先輩がいなくなっても、そういう活動が徐々に充実していけばよろしいかなと思っております。

そもそも私が知的財産、特許に関連するような仕事を始めたときには、技術と法律の狭間といった

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

感じの、なかなか難しい仕事でした。その当時、「おまえは何の仕事をしているんだ」と言うと説明できないんですよね。それで、「東京特許許可局」の早口言葉を例に出して、「その中の特許庁というのを相手にいろいろ仕事をするとこなんだよ」ということをやると、何となく分かってくれた。そんな時代でした。現在はこの10年で知的財産については政府を上げて知的財産立国ということをやられていまして、まさにフォローの風、満帆に風を受けて、皆様方が活動をなさるということで、うらやましいな、これからいいなと思っています。

そうは言ってもビジネスの世界、極めて細かい多様化が進んでおりますので、そういった中で各委員会活動、先ほどパネル等を見せて頂きましたけれども、極めて広い範囲で、しかも深い議論がなされて、そういったアウトプットが出されているんだなと思いました。こういった成果をまた後輩に伝えていくというビジネスをやっていけば日本知的財産協会もこれからもますます発展して行くんじゃないかと思います。

私も定年を迎えた後、こういう仕事も少しはやらせて頂いて行きますけれど、私に続く人たちも含めて、知財藩、昔で言うと江戸時代の各藩の後進を養成する藩校、つまり寺子屋の使命を日本知的財産協会などの研修が請け負っているのではないかと思いますので、その辺を少しでもお手伝いできればと思っています。

取り留めも無いお話を差し上げましたけど、本日はどうもありがとうございました。これからの日本知的財産協会の発展をお祈りしまして、御礼のご挨拶にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

